

## 令和3年度卓越研究員決定者一覧

通番	氏名	審査分野	機関名	部署名	ポスト分野	卓越研究員としての研究テーマ
1	秋山 央子	生物系科学	学校法人順天堂大学	健康総合科学先端研究機構	医歯薬学	グルコシルセラミド分解酵素を介したパーキンソン病発症機構の解明
2	砂田 成章	医歯薬学	学校法人順天堂大学	健康総合科学先端研究機構	医歯薬学	がん創薬を目指した大規模DNA損傷修復解析基盤の構築
3	鈴木 誠也	工学系科学	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	先端基礎研究センター	数物系科学	ゲルマニウムの2次元単原子層であるゲルマネンのデバイス化に関する研究
4	Smallcombe James	数物系科学	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	先端基礎研究センター	数物系科学	多核子移行反応を用いた中性子過剰核の分光研究
5	藪中 俊介	数物系科学	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	先端基礎研究センター	数物系科学	界面のダイナミックスの研究
6	丸山 善宏	数物系科学	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	佐藤匠徳特別研究所	数物系科学	数学・物理・情報を横断する「圏論的双対性」と「圏論的論理」の理論的ないし応用的研究
7	濱田 雄太	数物系科学	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	素粒子原子核研究所理論センター	数物系科学	超弦理論にもとづく素粒子標準模型を超える模型の研究
8	黒田 悠介	医歯薬学	国立大学法人京都大学	大学院薬学研究科	医歯薬学	低分子炭化水素およびタンパク質中の炭素-水素結合の精密変換
9	佐藤 洋平	医歯薬学	学校法人慈恵大学東京慈恵会医科大学	基盤研究施設	医歯薬学	新型コロナウイルス特異的T細胞ならびに制御性T細胞の解析
10	Rouet-Leduc Bertrand	数物系科学	国立大学法人京都大学	防災研究所	数物系科学	Data science-based study of a wide range of slip modes in earthquakes (データサイエンスに基づく、地震における幅広いすべりモードの研究)
11	相澤 直矢	化学	国立大学法人大阪大学	工学研究科	化学	理論計算が先導する有機EL材料の開発
12	藤田 直樹	数物系科学	国立大学法人熊本大学	大学院先端科学研究部	数物系科学	トーリック退化の表現論的研究
13	新津 甲大	工学系科学	国立研究開発法人物質・材料研究機構	先端材料解析研究拠点	工学系科学	物性相関と幾何相関に基づく材料強化機構の学理構築
14	木原 工	工学系科学	国立大学法人岡山大学	異分野基礎科学研究所	数物系科学	磁場による固体の磁気・電気・熱特性制御と新機能性の創発
15	松尾 和哉	化学	国立大学法人京都工芸繊維大学	分子化学系	化学	細胞機能を自在に制御・操作するためのケミカルバイオロジー技術の確立
16	桑原 卓哉	工学系科学	公立大学法人大阪大阪市立大学	工学研究科	工学系科学	摩擦界面の原子スケールモデリング及び理論設計
17	増田 明	医歯薬学	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	佐藤匠徳特別研究所	医歯薬学	人工視覚で実現される視覚能を予測可能にするための基盤的データを得ることを目的とする研究
18	池田 暁彦	数物系科学	国立大学法人電気通信大学	大学院情報理工学研究科	数物系科学	次世代量子ビームによる物質の極限強磁場で量子状態の解明
19	田原 優	医歯薬学	国立大学法人広島大学	学術院(大学院医系科学研究科)	医歯薬学	時間栄養学のリバース・トランスレーショナル研究
20	岩野 智	化学	国立大学法人宮崎大学	テニユアトラック推進室	生物系科学	生物発光を基盤とした技術開発研究
21	佐野 航季	化学	国立大学法人信州大学	繊維学部 化学・材料学科	化学	二次元物質間に働く相互作用の精密制御を基盤とする材料科学
22	森 雄太郎	医歯薬学	国立大学法人東京医科歯科大学	腎臓内科学分野	医歯薬学	細胞老化と免疫チェックポイント分子をターゲットとした慢性腎臓病の病態解明および新規創薬
23	坂谷 尚哉	数物系科学	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所 太陽系科学研究系	数物系科学	低リソースな小天体超高速フライバイ撮像手法の開発

※補助金による支援の対象とならない卓越研究員を含む。

## 令和3年度卓越研究員事業における一覧化公開ポストを提示した研究機関

●A.国立大学（18機関）		
1	室蘭工業大学	6
2	北見工業大学	2
3	東北大学	2
4	秋田大学	2
5	東京大学	1
6	東京医科歯科大学	2
7	東京海洋大学	1
8	電気通信大学	1
9	長岡技術科学大学	1
10	金沢大学	2
11	信州大学	2
12	京都大学	2
13	京都工芸繊維大学	2
14	大阪大学	1
15	広島大学	1
16	岡山大学	2
17	熊本大学	2
18	宮崎大学	2
計		34

●B.公立大学（1機関）		
1	大阪市立大学	1
計		1

●C.私立大学（3機関）		
1	東海大学	1
2	順天堂大学	2
3	東京慈恵医科大学	1
計		4

●D.大学共同利用機関法人（1機関）		
1	高エネルギー加速器研究機構	1
計		1

●E.国立研究開発法人（3機関）		
1	日本原子力研究開発機構	7
2	物質・材料研究機構	1
3	宇宙航空研究開発機構	3
計		11

●F.公的試験研究機関（0機関）		
1		
計		0

●G.企業（8機関）		
1	リージョナルフィッシュ株式会社	1
2	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	1
3	ソニーコンピュータサイエンス研究所	2
4	オンチップ・バイオテクノロジーズ	1
5	シンクサイト株式会社	1
6	Ghoonuts株式会社	2
7	株式会社ビジョンケア	1
8	ソニーグループ株式会社	1
計		10

●H.社団・財団法人（1機関）		
1	公益財団法人がん研究会	2
計		2

●I.その他（0機関）		
1		
計		0

●全体（35機関）		
計		63

## 背景・課題

- 我が国の研究力強化の鍵は、競争力のある**若手研究者の活躍**であり、**若手研究者と産学官の研究機関とのマッチングを促進**し、科学技術イノベーションの推進と我が国の持続的発展につなげていくことが必要。
- 特に、**産学官の研究機関が優れた若手研究者に安定かつ自立した研究環境を提供**し、自主的・自立的な研究に専念できるようにしていくことが我が国の研究力の向上を図る上で極めて重要。

### 【統合イノベーション戦略2020(令和2年7月17日 閣議決定) 抜粋】

- 産学官を通じた若手研究者へのポストの重点化(卓越研究員事業等)を実施する。

## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

- 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。

### 【事業の概要】

- ① 卓越研究員の受入れを希望する大学、研究開発法人、企業等からポストを募集し、一覧化して公開
- ② 若手研究者に対して卓越研究員の公募を行い、厳正な審査を経て文部科学省が若手の卓越した研究者を候補者として選定
- ③ その後、卓越した研究者とポストを提示した研究機関が交渉を行い、マッチングが成立した候補者について、文部科学省が卓越研究員として決定  
その際、**若手研究者と研究機関をつなぐブリッジプロモーターによりマッチングを促進**
- ④ 卓越研究員を受け入れた研究機関に対し、一定の期間、研究費等を支援  
※ 海外からの帰国者や、民間企業等を志望する者の特別枠を設け支援。

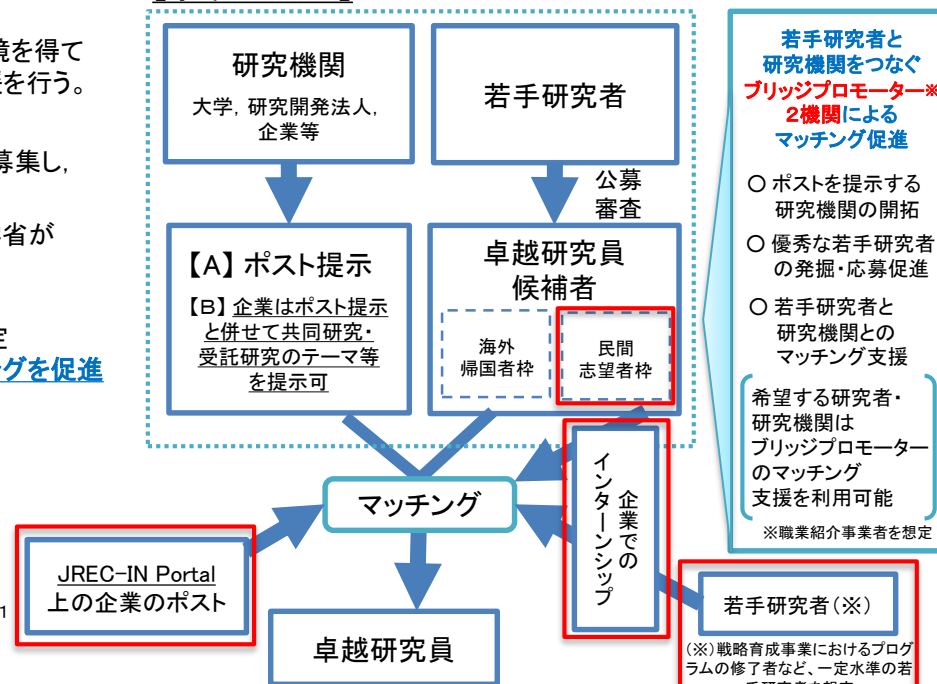
### 【事業スキーム】

- ✓ 支援対象：国公立大学、国立研究開発法人、民間企業等
- ✓ 人数：240名程度(うち新規採用 20名程度)
- ✓ 支援内容：【A】若手研究者の研究費 年間6百万円(上限)／人(2年間)<sup>1</sup>  
研究環境整備費 年間2～4百万円(上限)／人(5年間)  
※1 人文・社会科学系は、400万円を上限
- 【B】産学連携活動費 年間最大10百万円(上限)／人 (最長5年間)<sup>2</sup>  
※2 クロスアポイント制度や出向制度を活用した共同研究も想定。  
補助率1/2とし、企業負担額を上限。共同研究等の開始が2年目の場合、1年目は研究環境整備費のみ措置。

### 令和3年度の新規取組事項

企業増加及びマッチング数の増加の観点から、インターンシップを経由して採用する新たな枠組みなど、若手研究者のキャリアパス拡大に向けた取組を実施。

### 【事業イメージ】



- 【A】従前と同様、若手研究者の研究費と研究環境整備費を支援
- 【B】企業が卓越研究員を共同研究又は受託研究に就事させる場合は産学連携活動費の1/2を支援

※ 企業は【A】又は【B】を選択。

## 1. 公募期間及び申請件数

令和3年度卓越研究員事業について、令和3年5月27日（木）からポスト公募を開始し、同年10月11日（月）までに、大学や公的研究機関、民間企業などから63件（35機関）の提示にご協力いただき、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のウェブサイトを通じて公開しました。（別紙2参照）

申請者（若手研究者）については、令和2年度からの候補者資格継続者が197名でした。また、令和3年5月10日（月）より、申請を受け付け、同年6月10日（木）までの間、公募を行った結果、215名の新規申請者（研究者）から申請書の提出を受け付けました。

## 2. 選考方法及び決定件数

本事業に係る審査等業務を行う独立行政法人日本学術振興会において、有識者によって構成される卓越研究員選考委員会を設置し、本事業の審査要領に基づき審査を行い、同委員会の審査結果を踏まえ、令和3年10月21日（木）に文部科学省において、候補者資格継続者197名を含む285名の卓越研究員候補者を新たに決定しました。

同時に、新規申請者（研究者）とポストを提示した研究機関において当事者間交渉が行われ、令和3年8月31日までに各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た旨文部科学省に報告された卓越研究員候補者のうち、22名を補助金による支援の対象となる卓越研究員として決定しました。その後、補助金による支援の対象とならない卓越研究員を追加で1名決定し、計23名を令和3年度卓越研究員として決定しました。